

同等以上の目安について

別紙2付録6に示す「(1)基整促波②、③」の方法により策定した設計用長周期地震動の V_e/pSv の値が、別紙2別添「基整促波②③の方法による V_e と pSv の比」の代表地点で示される値と「同等以上」であることの判断には、以下に示す条件を満足することを目安とする。

①最小スペクトル比

$$\varepsilon_{min} = \left\{ \frac{\left(\frac{V_e(T_i, 0.10)}{pSv(T_i, 0.05)} \right)_{obj}}{\left(\frac{V_e(T_i, 0.10)}{pSv(T_i, 0.05)} \right)_{ref}} \right\}_{min} \geq 0.85$$

②平均値

$$\varepsilon_{ave} \geq 1.00$$

ただし、

$$\left(\frac{V_e(T_i, 0.10)}{pSv(T_i, 0.05)} \right)_{obj} : \text{作成する設計用長周期地震動の } V_e/pSv \text{ の値}$$

$$\left(\frac{V_e(T_i, 0.10)}{pSv(T_i, 0.05)} \right)_{ref} : \text{代表地点で示される } V_e/pSv \text{ の値}$$

$V_e(T_i, 0.10)$: 代表地点および設計用長周期地震動のエネルギースペクトル(減衰 10%)

$pSv(T_i, 0.05)$: 代表地点および設計用長周期地震動の擬似速度応答スペクトル(減衰 5%)

T_i : 一次固有周期付近で比較・判定する周期成分

$$\varepsilon_{ave} : \sum \varepsilon_i / N$$

$$\varepsilon_i = \left\{ \frac{\left(\frac{V_e(T_i, 0.10)}{pSv(T_i, 0.05)} \right)_{obj}}{\left(\frac{V_e(T_i, 0.10)}{pSv(T_i, 0.05)} \right)_{ref}} \right\}$$

N : 一次固有周期付近で誤差を比較・判定する周期成分の数